

旭川医大病院ニュース

<https://www.asahikawa-med.ac.jp/>



編集 旭川医科大学病院
広報誌編集委員会委員長
谷野美智枝



第1回 旭川医科大学クラウドファンディング成立のご報告

令和7年1月15日に公開した3つのプロジェクトは皆様の温かいご支援を受け、全て目標金額を達成してプロジェクト成立となりました。厚くお礼申し上げます。各プロジェクトは皆様の期待を実現化するために、活動を開始しています。

微生物から薬を創る！小児白血病の薬のタネを探す、創薬研究の第一歩を

革新的な小児白血病治療法の開発を目指して

プロジェクトでは、乳酸菌や麹菌などの有益微生物が産生する分子の機能を利用し、安全性と効果に優れた小児白血病の治療薬の開発に取り組みます。このたびは、255名もの皆様にご賛同いただき、目標を大きく上回るご寄付を頂戴いたしました。温かいご支援と励ましのお言葉に、心より感謝申し上げます。皆様のご支援を力に、プロジェクトはスタートしました。今後も研究の成果を社会へ還元できるよう努めてまいりますので、引き続き温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

消化器先端医学講座

特任講師 小西 弘晃

血液がん治療の地域格差を解消したい！移植治療の環境整備にご支援を

クラウドファンディングにご支援頂き、ありがとうございました！

この度は、多くの方々から温かいご支援、応援のコメントを頂きまして、心より感謝申し上げます。おかげさまで、目標金額を大きく上回るご寄付を頂き、無事プロジェクトを成功させることができました。早速、頂いたご寄付を用いて、細胞凍結保存容器の購入手続きを進めております。これからも、当院での造血幹細胞移植の充実およびCAR-T細胞療法の導入を進め、血液がん治療の地域格差の解消に向けて努力して参ります。引き続き、応援のほどよろしくお願い申し上げます。

内科学講座(血液内科学分野)

講師 高橋 秀一郎

膵がん早期診断へ向けた、血液を用いる新たな診断法の開発

膵がん早期診断のための膵癌パネル臨床実装化 へ向けて頑張ります

このたび本プロジェクトの立ち上げ、応援に携わって下さった皆様、ご支援頂いた皆様に、改めまして感謝を申し上げます。

頂いた資金を有効活用し、私どもの研究成果を膵癌早期診断へ向けた臨床応用へと結実できますよう、全力で取り組んで参りたいと思います。旭川医大から消化器領域の臨床・研究分野へ新しい知見を発信できますよう、今後も精一杯務めて参りたいと思います。

内科学講座(消化器内科学分野)

講師 高橋賢治

この度のクラウドファンディング(CF)は、旭川医科大学として初めて取り組んだプロジェクトであり、3件のCFがすべて成立した事を、大学職員一同大変嬉しく思っております。先端的医療や研究の推進に御寄付いただいた地域の皆様や卒業生の皆様に、病院長として心から感謝と敬意を表します。今回のCF成功は、大学で研究するものにとって大変な励みとなると思います。大学として、今回のCFの成果として新知見が導き出せるよう応援してゆくとともに、このCFプロジェクトを育てて参りますので、引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

病院長 東 信良

今号の掲載記事

○ 第1回 旭川医科大学クラウドファンディング成立のご報告	1
○ 教授就任あいさつ	2
○ 部長就任あいさつ	3
○ 新人医師、新人看護師デビュー	3
○ 【お知らせ】今年もやります！オープンホスピタル	3
○ 【報告】ベトナム医療援助ボランティア活動再開	4
○ 【お知らせ】看護師特定行為者研修修了者にバッジ授与	5
○ 【お知らせ】専門看護師・認定看護師による相談窓口を開設	5

○ 【報告】病院前の分娩も守る！病院前分娩対応セミナー	5
○ 【報告】看護の日、看護週間	6
○ 【報告】医大祭2025	6
○ 連載【薬剤部】副作用情報・サイトカイン放出症候群	7
○ 連載【臨床検査・輸血部】念願のフローサイトメーター復活	7
○ 新連載【診療科紹介】内科(循環器・腎臓・呼吸器・脳神経)	8
○ 患者数統計	8
○ 時事ニュース	8
○ 編集後記	8

教授就任のご挨拶

皮膚科学講座 教授 藤田 靖幸



このたび2025年5月1日付で、当学皮膚科学講座教授を拝命いたしました藤田靖幸と申します。

私は札幌生まれ札幌育ちですが、父方の実家は中富良野町にあり、妻が旭川出身ということもあって、幼少の頃から上川地方には親近感を抱いておりました。2002年に北海道大学を卒業し、同学皮膚科学教室に入局いたしました。道内各地の関連病院で研鑽し、大学院では表皮水疱症という生まれつき皮膚が非常に弱くなってしまう遺伝性の病気に対して、幹細胞による治療ができないか研究をしてきました。学位取得後は北海道大学で表皮水疱症や乾癬の専門外来を担当しつつ、リンパ腫や皮膚病理など日常診療で疑問に思ったことを幅広く下級医の先生方とともに取り組んできました。また、表皮水疱症や乾癬、結節性硬化症、壊疽性膿皮症と

いった難治な皮膚疾患に対する治験に携わってきました。その後は市立札幌病院で臨床医として勤務しつつ、全国学会の運営などに従事しておりましたが、様々な縁が重なって当講座をお任せいただくことになり、大変光栄に存じます。

当講座は大河原章先生、飯塚一先生、山本明美先生と、乾癬や形態学、皮膚病理学に造詣の深い教授が教室を牽引され、国内外にその名を響かせてきました。教室の良き伝統を引き継ぎながら、臨床研究や乾癬・希少皮膚疾患など、私が貢献できる分野を伸ばすことに注力する所存です。これまで支えてくださった最強のスタッフ陣と、若い先生方の熱い思いに応えられるように、皮膚科学と当講座の発展に尽力したく存じます。今後ともご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

教授就任のご挨拶

腎泌尿器外科学講座 教授 沼倉 一幸



2025年5月1日より旭川医科大学病院泌尿器科の科長を務めさせていただいております沼倉一幸と申します。泌尿器科の記念誌を見ますと、泌尿器科の診療開始は1976年11月4日であることが確認でき、黒田一秀先生、八竹直先生、柿崎秀宏先生が順に科長を務められ、私は4代目の科長です。1976年は私の生まれた年でもあり、偶然とはいえ、旭川医科大学病院に赴任できたことに縁を感じている次第です。

さて、私たちが担当する尿路生殖器疾患は高齢者に多く、人口構成割合の高齢化が進む日本では対象となる患者さんが増えているのが特徴です。旭川医科大学の医療圏である道東道北地域は人口の減少が進むものの高齢化人口は逆に増加しており、しばらくは患者さんの増加傾向が続くと予想されています。このような中、私の目標は、道東道北地域の尿路生殖器疾患の患者さんに対して、標準治療だけでなく、高度および先端治療まで旭川医科大学で完結できるような体制を常に整え続けることと考えております。

そのためには、ただ標準治療をcatch upするのではなく、まだ標準治療になっていない最新の知識と技術を身につけていく必要があります。特に、腫瘍性疾患の生物学的および遺伝学的解析や薬物のテーラーメイド医療など、私が今まで行ってきた研究をさらに発展させ、旭川医科大学から最新の治療を提案できるよう進めていくつもりです。

今後、皆様に多くの支援をお願いすると思いますが、ご指導・ご協力をお願いできれば幸いです。よろしくお願いいたします。

旭川医科大学公式ニュースレター

大学の活動をいち早くお知らせする大学公式ニュースレターです。

★ご登録はこちらから→



旭川医科大学基金へのご寄附のお願い

旭川医科大学基金は、教育及び研究活動を充実し、地域医療に根ざした医療・福祉のさらなる向上を目指しています。

基金の活動やご寄附の方法などについては、ウェブサイトをご覧ください。



部長就任のご挨拶

感染制御部長 高原 幹



このたび令和7年度より感染制御部部長を拝命いたしました耳鼻咽喉科・頭頸部外科の高原幹と申します。感染制御の分野についてはまだまだ勉強中の身ではございますが、諸先輩方が築いてこられた体制を大切にしながら、微力ながらも職責を果たしてまいりたいと思っております。

感染制御部は、院内感染の予防や抗菌薬の適正使用、職員の皆様への情報提供や教育など、多くの職種の方々と連携しながら取り組んでおります。新型コロナウイルスの流行を経て、感染対策の重要性はますます高まっております。

安全・安心な医療の提供のため、皆様のお力添えをいただきながら、一步一步前に進んでまいりたいと存じます。どうか今後ともご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



新人医師、新人看護師 デビュー



感謝を忘れない

研修医 小山 泰司



まず初めに、日頃ご指導いただいているメディカルスタッフの皆様、そして研修をご了承くださっている患者様の皆様、誠にありがとうございます。入職してからの3ヶ月間はあっという間に毎日が過ぎていき、まだまだ学ぶことも多く、今までの

試験の勉強とはまた違う難しさを感じる日々を過ごしております。メディカルスタッフの皆様の知識と努力に尊敬の念を抱くと同時に、自分自身も生涯自己研鑽を積んでいかななくてはならない、と身が引き締まる思いです。また、疾患の治療のみならず、患者様ご自身やご家族のお気持ちに寄り添うような医療者であり続けたいと思います。今後の研修におきましても、関わる皆様への感謝を忘れず、謙虚な姿勢で学ばせていただきたいと思います。

看護師として働き始めて

6階東ナースステーション 看護師 奥山 滯奈



看護師として働き始めたこの2か月は、あっという間で毎日が新しい経験の連続でした。実際の現場では学生時代の経験では補いきれないことも多く、最初は戸惑いや不安を感じていました。ですが、病棟の皆さんはどんなに小さな疑問にも真剣に向き合い支えてくれます。病棟の皆さんからのご指導やご助言のおかげで、この2か月で自身の成長を実感できる場面もありました。日々の業務の中での経験ひとつひとつが看護師として成長する糧となる貴重な学びとなっています。私は、周囲の動きを見ながら患者さんの小さな変化に気づける視点を身につけたいと考えています。そして、チームの一員として、的確かつ迅速に対応できる看護師を目指して努力していきます。

2025
9月

27
(土)

お知らせ

今年もやります！ オープンホスピタル2025

今年は9月27日(土)に開催いたします。オープンホスピタルは、旭川医科大学病院が地域に開かれた病院として、若い世代に病院と医療職の魅力を発信することを目的としています。昨年の活動では、各職種の具体的な仕事を体験することで、医療職への興味を深め、進路選択を考える良い機会を作れたかな？と感じました。

今年は、午前には職業相談を開設、午後は体験コーナーと撮影コーナーの場所拡大などを企画しています。多くのご参加をお待ちしております。

報告

ベトナム医療援助ボランティア活動再開

歯科口腔外科学講座 准教授 吉田 将亜・講師 矢島 優己

当講座では、2007年よりベトナム・ベンチェ省において、口唇口蓋裂患者を対象とした医療援助ボランティア活動を継続してきました。ベンチェ省は、ホーチミンの南西約90km、メコン川のデルタ地帯に位置し、ベトナム戦争時に枯葉剤の影響を大きく受けた地域として知られています。この活動は、日本口唇口蓋裂協会が行う短期滞在型医療援助活動に同行する形で、毎年実施されてきましたが、COVID-19の流行により、活動は一次中断を余儀なくされていました。2023年5月にCOVID-19が2類感染症から5類感染症へと位置づけが変更され、行動制限が緩和されたことを受け、2024年度のベトナム医療援助への参加要請が日本口唇口蓋裂協会よりありました。これに伴い、本学関係各所のご協力のもと、参加に向けた準備を進めてまいりました。

今回の活動には、全国の大学病院や総合病院から、歯科口腔外科医、麻酔科医、産婦人科医、小児科医、看護師に加え、医学生、歯学生、協会事務局員、新聞記者など総勢約50名が参加しました。日程は2025年3月22日から30日の9日間で、22日夜に現地ホテルに到着し、翌朝6時よりミーティング、医療資材の荷ほどき、手術室の設営準備に取りかかりました。手術には、現地病院(グエンディンチュウ病院)の手術室および麻酔器を使用しましたが、手術器材、縫合糸、医薬品、麻酔器具などは日本から持参、もしくは現地で調達する必要がありました。午後からは術前診察および術後再診が行われ、約100名の患者が来院。夜8時頃まで診察を実施し、24日から28日までの5日間で39名の患者に対して手術を行うことができました。手術期間中は、朝5時30分に起床、6時より朝食とミーティングを行い、7時には病院へ移動。順次、麻酔導入および手術を開始します。術後の患者は、日本人小児科医が常駐するリカバリー室で経過観察を行い、翌日に問題がなければ一般病棟へ移動する体制となっていました。夜は夕食後に再度病棟を訪れ、回診を行います。手術最終日には、障害児施設の訪問や現地政府・病院関係者を招いた国際交流会も開催されました。29日には病院機材の撤収作業を行い、ベンチェ省を出発後、ホーチミン市内を視察し、深夜便にて帰国しました。

今回手術を受けた39名は、生後4か月から39歳までと年齢層が広く、特に瘻孔閉鎖術や口唇修正術などの二次手術が23例と半数以上を占めていました。日本では、口蓋形成術は通常、体重10kg以上、年齢1歳6か月頃が目安とされていますが、今回の14例中3例は20歳以上で、最高齢は39歳でした。経済的理由などにより、適切な時期に手術を受けられなかったことが推察され、このような医療支援活動の重要性を改めて認識する機会となりました。

本活動の再開にあたり、ご理解とご協力を賜りました関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。



お知らせ

看護師特定行為研修修了者にバッジを授与

看護師長（看護師特定行為研修担当） 大宮 剛

この度、特定行為研修修了者へ高度な知識・技術を習得された証として、また患者さんや院内職員の方々に特定行為研修修了者であることを認識していただくため、バッジが授与されました。

このバッジは、写真のように旭川市を代表する旭橋をモチーフとしています。橋を用いたのは特定行為研修修了者には3つの役割が期待されていると考えるためです。1つ目は特定行為研修修了者が看護師の中でも特にチーム医療のキーパーソンとして、医師をはじめとする多職種との調整役を担ってほしいことです。2つ目は継続した看護の関わりの中で特定行為を実施し、看護の質の向上に寄与することです。3つ目は地域包括ケアシステムにおいて、地域の看護職、病院・施設等との連携を図る担い手としての活躍が求められていることです。このように特定行為研修修了者は様々な場面で架け橋のような存在となることが望まれるため、橋をイメージしました。

旭川市を代表する橋である旭橋のように、特定行為研修修了者が当院及び地域の中で、より一層活躍されることを期待します。



お知らせ

専門看護師・認定看護師による相談窓口を開設

看護部認定看護委員会 大宮 剛

2025年度、当院では2分野6名の専門看護師と、11分野19名の認定看護師が活動しています。専門看護師の役割は「実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究」であり、認定看護師の役割は「実践・指導・相談」です。この役割を認識し、それぞれの看護師は専門分野に関する知識と技術を高め、患者さん、およびご家族に対して水準の高い看護ケアを実践し、看護ケアの広がりや質の向上に努めています。これまでは主に院内を中心としてその活動を実践してきました。

当院の理念は「患者中心の医療を実践し、地域医療に寄与するとともに、国際的に活躍できる医療人を育成する」です。病院の理念に基づき、専門・認定看護師の相談役割を担う活動の一つとして、このたび院外の看護職の皆様に対し「専門看護師・認定看護師による相談窓口」を開設する運びとなりました。まずは道北・道央の医療機関にご案内し、今後地域を拡大していきたいと考えております。

専門・認定看護師が持つ知識・技術が、地域の看護師の皆様が対峙する課題や困りごとを解決する一助となり、より一層地域医療の質向上に寄与していきたいと考えております。

報告

病院前の分娩も守る！病院前分娩対応セミナー

周産母子センター 副センター長 金井 麻子

2025年3月16日(日)に緑が丘テラスで救急隊向けの「病院前分娩対応セミナー」を病院職員・近隣の救急救命士の協力を得て開催しました。シミュレーターを用いた臍帯切断、床上や病院救急車を借用し狭い車内での分娩介助、病院前で出生した新生児の対応についての講義・実技を午前/午後の2部制で行い、計30名の救命士さんが参加されました。2022年・2023年にも開催し、これまでもドクターヘリ内の分娩症例に対応したフライトドクター/ナース、今回は1年以内に救急車内分娩に対応した救命士さんにも参加され、症例の振り返りもできました。分娩介助のシミュレーターについてはシミュレーションセンター、総務課、教務課で購入していただいております。実技を行うセミナーを開催することができました。2025年度はすでに2件の病院前分娩があり、病院前でも母子共に安全に対応出来る様、セミナー開催を続けていきたいと考えております。



報告

看護の日・看護週間

看護部総務委員会

フローレンス・ナイチンゲールの誕生日である5月12日は「看護の日」と制定され、この日を含む1週間は「看護週間」とされています。看護部ではこの特別な週に合わせて、「看護の心、ケアの心、助け合いの心」を分かち合うためのイベントを開催しました。

今年も恒例となっている入院患者さんへのメッセージカードをお届けするとともに、「看護の心を音にのせて」というテーマのもと、病院の正面玄関で旭川ホルン倶楽部によるホルンミニ演奏会を実施しました。アンケートでは「落ち込んでいたが癒された」「心地よい音だった」など、多くの喜びの声をいただきました。

また、昨年復活した「ふれあい看護体験」には、市内の高校生25名が参加し、6年ぶりとなる病棟体験を実施することができました。井戸川看護部長の挨拶後、高校生たちは緊張した様子で病棟へ向かいましたが、体験が終わるころには「すごい！」「かっこいい！」と興奮しながら、その魅力を実感していました。午後からは病棟看護師による講演を行い、印象深い看護の体験やベトナム支援活動、特定看護師としての活動について語っていただきました。高校生たちは熱心にメモを取りながら、真剣に耳を傾けている姿が印象的でした。

今年の日本看護協会のテーマは「なりたい自分になってやる。」でした。今回の体験を通じて、高校生たちが看護師になりたいという想いを深め、近い将来、共に働ける日が来ることを楽しみにしています。



報告

医大祭2025

医大祭実行委員会

今年度の医大祭テーマは「医心同体」でした。医心同体とは、学生が一丸となって医大祭の企画、開催を行い、大学関係者の皆様や外部の機関の皆様の協力を得て、医大祭を通じて地域の皆様と我々学生がつながることを目指すテーマです。

多くの方に楽しんでいただくために様々な企画を行いました。各部活動が出展する模擬店や、音楽系の団体によるコンサート、医学展、また地域の皆様と協力して行うフリーマーケットや青空市なども行いました。

講演会では、東京大学医学部卒・現研修医で宇宙医学の発展に尽力する石橋拓真先生が登壇され、宇宙空間での人体の変化や最新の医学研究について紹介してくださいました。スマートフォンから気軽に質問できる形式により、積極的な交流が生まれました。将来の目標設定についても具体的なアドバイスをいただき、多くの参加者にとって、新たな視点とモチベーションを得る貴重な機会となりました。

伴戸寛徳先生による公開講座では、アニサキスやトキソプラズマなど身近な寄生虫の脅威や感染症の基礎、日常生活での対策について学びました。寄生虫展示やシール配布もあり、小さな子どもから大人まで楽しみながら学べる内容でした。

さらに、人気芸人「ゴー☆ジャス」「Yes!アキト」によるお笑いライブでは会場が笑いとお声に包まれ、来場者全員が楽しめるイベントとなりました。

旭川医科大学は地域医療への取り組みだけではなく、学生が医学的な問題を含め、様々な問題に対して考察する力を育成することにも力を入れているため、専門的な知識だけではなく、問題解決能力やコミュニケーション能力などといった医師や看護師として働く上で必要なスキルも身につけることができます。

我々一同、皆様のご入学をお待ちしております。



薬剤部

副作用情報（83）サイトカイン放出症候群

(Cytokine Release Syndrome : CRS)

薬品情報室 武田 怜

サイトカイン放出症候群(以下CRS)は、内因性または外因性のT細胞、その他免疫エフェクター細胞の活性化をもたらす免疫療法後に起こる有害事象である。免疫機能の活性化により様々なサイトカインが放出され、下記の臨床症状を引き起こす。特にインターロイキン-6(以下IL-6)が中心的な役割を果たすと考えられている。

臨床症状は発熱、低血圧、低酸素症、頻脈、悪寒等である。重症化すると低血圧および低酸素症の悪化、心房細動や心室頻拍等の不整脈、循環不全、腎不全、毛細血管漏出症候群等をきたし、致死的な経過をたどることがある。免疫療法開始後2週間以内に発現することが多い。重症化の予防のためには早期診断および介入が重要であり、十分な患者指導と臨床症状の観察が求められる。

主な原因薬剤・療法として二重特異性抗体製剤、キメラ抗原受容体(以下CAR)-T細胞療法が挙げられる。二重特異性抗体製剤ではCRSによる死亡の報告があり、副腎皮質ステロイドの前投薬等の予防的措置を徹底する必要がある。CAR-T細胞療法に副腎皮質ステロイドの前投薬は必須ではないが、CRSの発現頻度が74~100%と極めて高い。

CRSに対する標準治療は、抗IL-6抗体製剤のトシリズマブと副腎皮質ステロイドである。これらの治療薬は中等症以上の症例の他、軽症例でも対症療法で改善が見られない場合に使用が考慮される。CRSの管理方法は治療によって異なるため、詳細は各製剤の添付文書や適正使用ガイドを参照されたい。

<参考文献>

「サイトカイン放出症候群(CRS)と神経毒性(ICANS)のマネジメント」(医学のあゆみ 289(9): 685-690, 2024)

臨床検査・輸血部

念願のフローサイトメーター復活

血液一般検査室 渡辺 愉美

先代フローサイトメーター(FCM)が寿命をむかえて以降、多くの方にご不便をおかけしておりましたが、このたび臨床の先生、事務方のご助力もあり、とうとう新しいFCMが検査室にやってきました！！

FCMは光や蛍光色素を利用して細胞1つ1つの特徴を調べる装置です。白血病やリンパ腫などの疾患を鑑別する際、私たちはまず“顕微鏡”を用いて「細胞の種類は？」「形は正常？」「悪い細胞は出ていない？」と目で細胞を観察します。しかし、「少し形が妙だけど、個性？異常？」「みかけない細胞だけど、どこから来た？」と、形だけでは異常性や由来が分からない場面もあります。そんなときFCMなら、何千、何万個という細胞を迅速に分析し、「この細胞は物質Aを持っていますが物質Bは持っていません」「AB両方もつ細胞は全体の30%です」と、目には見えない情報を数値で提示してくれるのです。私たちはその情報を組み合わせて細胞の異常性や由来を判定できます。しかも、今回やってきたFCMは「マルチカラー」対応機種！これまでは1つの細胞に対して2種類の物質(A/B)しか同時検出できず、CもDもEも調べたい場合はそれらを何通りも組み合わせて測るしかありませんでした。これに対して「マルチカラー」なら、より多くの物質を同時検出できます。これはすごい！（ちなみにうちの機種は現在8カラー対応です）。すばらしい検査機器の性能を十分引き出し診断に役立てるため、私たち臨床検査技師も精進していく次第です。



シリーズ 診療科紹介

NEW

循環器内科・腎臓内科・呼吸器内科・脳神経内科

内科学講座（循環器・腎臓内科学分野）（呼吸器・脳神経内科学分野） 教授 中川 直樹

「循環器・腎臓内科学分野」と「呼吸器・脳神経内科学分野」は、旧「内科学第一講座（一内）」の伝統と実績を礎に、生命に関わる重要な疾患の診療と研究を推進してきました。2023年10月の内科再編により両分野へと再編されましたが、旧第一内科が築いてきた強固な連携と総合力を保ちながら、それぞれの専門性を一層深めています。循環器内科では、虚血性心疾患、心不全、不整脈など多様な循環器疾患に対応し、救急領域の急性期治療から、リハビリテーションなどの予防・慢性期治療までを網羅しています。中でも、高度な技術や設備を要する最新の治療に注力しています。腎臓内科では、ネフローゼ症候群や慢性糸球体腎炎などの一般的な腎疾患に加え、ファブリー病やIgG4関連疾患といった難病にも専門的に対応し、早期診断から腎代替療法（透析・腎移植）を含む長期管理に至るまで、質の高い医療を提供しています。呼吸器内科は、肺がん、肺炎、気管支喘息、肺気腫、気管支炎、肺線維症などの頻度の高い呼吸器疾患に加え、アスベスト関連肺疾患、肺高血圧症、睡眠時無呼吸症候群といった比較的まれな疾患にも幅広く対応し、地域医療の中核としての役割を果たしています。脳神経内科では、脳卒中、パーキンソン病、認知症、てんかんなど、神経・筋疾患を広く診療し、専門的知見に基づく診断と治療を行い、複雑な病態にも柔軟に対応しています。私たちは、道北・道東地域の「最後の砦」として、各専門分野の連携を一層深めながら、地域の皆様の命と健康を守るため、今後も全力で取り組んでまいります。



令和6年度 患者数等統計

（経営企画課）

区分	外来 患者延数	一日平均 外来 患者数	院外 処方箋 発行率	初診 患者数	紹介割合	入院 患者延数	一日平均 入院 患者数	稼働率	前年度 稼働率	平均 在院日数 (一般病床)
	人	人	%	人	%	人	人	%	%	日
1月	26,223	1,380.2	97.5	834	105.8	13,801	445.2	74.0	70.5	10.4
2月	24,437	1,357.6	97.9	879	98.7	13,624	486.6	80.8	78.5	10.8
3月	28,141	1,407.1	97.8	970	101.2	14,651	472.6	78.5	78.3	10.7
計	78,801	1,382.5	97.8	2,683	101.8	42,076	467.5	77.7	76.4	10.6
累計	340,303	1,400.4	97.8	11,954	101.5	169,042	463.1	76.9	76.4	10.1

時事ニュース

- ・入学式 4月7日（月）
- ・看護の日 5月12日（月）
- ・看護週間 5月11日（日）～5月17日（土）
- ・医大祭 6月7日（土）～6月8日（日）
- ・合同入局説明会 6月16日（月）



編集後記

早くも6月が終わろうとしています。草木が色濃くなっていく構内で、学生さんたちがにぎやかに過ごしている姿を見ると、清々しい気持ちになります。この春に人生の節目を迎えられた方もいらっしゃると思います。初夏の青い空に向かって共に幸多きことを願う、令和7年の6月です。

総務課 清水 佳代子

「ウェルコネ」の後払い会計

お会計は
もう、
待たない



詳しくは
こちら
(当院 HP)



アプリの
インストール
はこちら(無料)

